

# かごしま幕末絵巻

～小松帯刀の目線でみた幕末の物語～

第1巻

## 薩摩と長州、対立の原点



# 幕末偉人列伝



破格の偉人  
西郷 隆盛

Takamori Saigo

明治維新を牽引した鹿児島城下出身の薩摩藩士。斉彬の死後、2度奄美に送られ、政治の表舞台から離れていたが、薩英戦争後に政務に復帰した。京都で長州藩と争った禁門の変では、小松帯刀とともに薩摩軍を指揮した。

西郷隆盛の肖像：国立国会図書館蔵

豚肉を求め続ける慶喜公！  
対応に追われた小松は……？

# IJIN MANGA

～豚肉だいすき慶喜公～



それにしても、長州藩は……。今年、慶応元（一八六五）年の夏、彼らが強引に軍勢を京都に送りこんで薩摩藩や会津藩と激戦を繰り広げました。私は慶喜公とともに朝廷の公家たちや諸藩の軍勢を指揮し長州藩を撃退しましたが、京都市中の多くが焼けてしまいました。京の名物・祇園祭も来年は行うことができないうです。この一件で、長州藩は薩摩藩のことを深く敵視しているようですが、我々もそれは同じ。世の中の一部には、同じ西国の有力な国だから、手を取り合ってもよいのではないかと、言う者もいますが、そのようなことはよほどのことがない限り、難しいのではないかと思います。

禁門の変の後、私たちは幕府の勝海舟殿の教え子に薩摩藩に招くことになりました。大久保利通と話し合い、長崎丸事件で失った航海技術に精通した人材を補うため、主に土佐藩を脱藩した人々をかくまうことにしたのです。私はかつて、勝殿と海を活かした国づくりを目指そうと語り合いました。彼の弟子たちとともに実現することになりそうです。同じく土佐出身で、かつてアメリカに渡った中浜万次郎も薩摩藩に招くことができればと考えています。勝殿の教え子の中に一人、変わった才能を持った人物がいました。それが、坂本龍馬さんです。

【次巻につづく】

〈元治元年夏〉長崎丸事件から禁門の変へ  
私の名前は小松帯刀清廉、薩摩藩の家老です。昨年夏に鹿児島湾で繰り広げられたイギリスとの戦争から城下も少しづつ復旧し、三度の話し合いを経て和平交渉も無事終了しました。さて、薩英戦争から五ヶ月後の文久三（一八六三）年末、幕府から借りていたあの蒸気船・長崎丸が、関門海峡で沈みました。聞くところによると、長州藩から砲撃され、緊急回避したところ火災が発生。結果、乗組員が二十八人も亡くなったとのこと。その中には、島津斉彬公のもとで反射炉や写真の研究をしていた宇宿彦右衛門殿も含まれていました。指宿の商人・浜崎太平洋さんも乗船していたようですが、彼はなんとか助かっています。しかし、航海術を持った人々をはじめ、藩士の命が失われたことはやはり痛

〈慶応元年〉坂本龍馬との出会い  
長州藩に追討軍を送るか、大坂に藩主の毛利父子を呼び出すかどちらかをすべきと強く訴えています。將軍後見職を務めていらつしやる徳川慶喜公と意見を対立されています。慶喜公は私に対して豚肉を贈るよう再三言ってくることもわかるように、私のことを信頼しておられるご様子。しかし、久光公も私も、慶喜公が会津藩や桑名藩の方々とはかなり親しくしていることに対し、疎外感を感じています。このままでは、斉彬公のご遺志である有能な人物が集まって日本を強く豊かな国にするこの実現が遠のいてしまうような気がします。

薩摩の蒸気船を長州が砲撃、  
両藩の間に亀裂が走る！  
文久三年、関門海峡で薩摩藩の蒸気船・長崎丸が長州藩の砲撃を受けて沈没し、薩長の対立が深まりました。薩摩の名家老、小松帯刀の目線で振り返る幕末の物語。

# 物語の舞台裏



## 鹿児島城跡

—鹿児島市—

「鶴丸城」の名で知られる薩摩藩72万石の城の跡。宇宿彦右衛門らはこの地で島津斉彬の写真撮影に成功した。現在は本丸の大手門である御楼門の建設に向けた取り組みが行われている。

〈交通アクセス〉  
鹿児島中央駅から市電・バス「市役所前」  
降車、徒歩5分。  
〈問い合わせ先〉  
鹿児島市役所 Tel.099-224-1111

次巻「幕末のヒーロー・坂本龍馬」の巻

【画：KENRO 本文監修：南九州歴史学会】